第４学年１組　　国語科学習指導案

令和４年１０月６日（木）第４校時

１　単元名・教材名　　気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう　　「ごんぎつね」

２　児童の実態と本単元の意図

（１）児童の実態

（略）

（２）本単元の意図

本単元は、学習指導要領〈思考力、判断力、表現力等〉の「C　読むこと」（１）「カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと」と「C　読むこと」（１）「エ　登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」、「C 読むこと」（１）「オ　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと」、〈知識及び技能〉の（１）「オ　様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすること」を受けて設定している。

身に付けさせる資質・能力

・登場人物の性格や気持ちの変化、情景について、場面の移り変わりと結び付けながら叙述に即して読む力

・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることで、文章をより理解したり、自分の感想や考えをもったりできる力

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第１次では、学習計画を立てて、見通しをもたせる。児童は文化フェスティバルの合唱で「ごんぎつね」のあらすじは理解できているが、より具体的にごんの気持ちや情景を想像できるように、言葉を大切にしながら叙述に即して読む視点で学習を進めていくことを押さえさせる。また、ごんの気持ちの変化を読み取れるように、場面ごとに「ごん日記」を授業のまとめとして書いていくことも確認する。そして、学習のゴールとして、「新見南吉ブックトーク会」を開くことも伝え、作品の内容だけでなく、登場人物の気持ちの変化を聞き手に伝えられるように、「ごんぎつね」の学習を通して、物語の読み方を学ぶことを伝え、学習の見通しを持たせる。さらに、初発の感想を書かせることで、児童の気づきを取り上げながら話し合えるようにして、場面毎にごんの気持ちについて児童一人一人が自分事として主体的に考えられるようさせたい。

第２次では、場面毎に本文を読んでごんの性格や気持ち、情景について考えを出し合いながら読み取っていく。本教材は６場面で構成されており、場面が進むにつれて、ごんの兵十に対する気持ちが高まっていくのを読み取ることができる。その際に、児童の書いた初発の感想を取り上げてみんなで考えを出し合うことで主体的に学習に参加できるようにしたい。また、毎時間のまとめとして、「ごん日記」にごんの気持ちを書いていくことで、兵十への気持ちがどんどん高まっていくことも実感させられるようにする。

児童には叙述を基に物語を読み取る力をつけさせるために、常に言葉を丁寧に扱うようにさせる。普段、何気なく使ってる「思う」と「考える」を取り上げるならば、「思う」と「考える」の違いは何か、なぜこの一文は「考える」なのか、なぜこの一文が「思う」のではいけないのかなど、学習を通して児童自らが言葉に注目して文章を味わえる読み方ができるようにさせたい。そうした読み方ができるようになれば、叙述を基にごんの気持ちや性格を読み取ったり、適切に情景を想像したりできると考える。ごんぎつねの文章内の語句には現代にはなじみのないものが使われている。適切な読み取りのために語句を正確に捉えられるよう、意味を調べる際には写真や動画も活用する。

第３次では、学習のまとめとして「新美南吉ブックトーク発表会」に向けて、自分がブックトークする作品を選び、「ごんぎつね」で学んだ叙述に即した物語の読み方を実践しながら、登場人物の気持ちの変化を発見させる。作品選びについては、児童が落ち着いて選べるように、並行読書として新美南吉の作品を読ませておくようにする。ブックトークをする際のグループについては、児童が様々な作品のブックトークを見ることができるように、作品選びを終えたら教師が意図的にグループ分け行うようにする。そして、「新見南吉ブックトーク発表会」では、各自が友だちの発表を聞きながら記録用紙に記入をして発表者の話を聞くことで、観点に沿って話を聞くことや発表することができるようにする。相手を意識した発表は、自分たちの普段の生活でどのように生かせるのか考えさせ、実践意欲を高めて終わりとしたい。

３　研究主題との関わり

研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』
～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け（語彙力）、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力（表現力）」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、言語活動を通して指導していく。

そこで、本単元では、次のような手だてを考えた。

仮説①
　読み取りに必要な語句を理解し、叙述に沿って文章を読み取ることができれば、語彙力を高めるとともに、物語中の言葉や文章から自分の考えをもつことができるだろう。

〈　手だて　〉　○意味調べの工夫と毎時間のまとめの積み上げの工夫

　ごんぎつねでは、日常生活では使われていない言葉や児童になじみのない言葉が使われているので、正確に語句を理解することが肝心と考える。また、「考える」や「思う」のように似たような表現の言葉を比べて違いに気付かせたいとも考えている。意味調べは授業や宿題で実施するが、その際に言葉の意味だけでなく、例文を自分で書くワークシートを用意することで、言葉の意味を理解しながら文章の中で活用する力も身に付けられるだろう。また、タブレットにごんぎつね資料集を用意することで、授業中に疑問に思った言葉をすぐに確認できるようにする。こうして、文章中の語句を正確に理解できれば、ごんの性格を捉えたり、気持ちの変化や情景を想像することができ、自分の考えをもつことができるだろう。さらに、毎時間のまとめとして、「ごん日記」をワークシートに書き続ければ、ごんの兵十に対する気持ちの変化も捉えられると考える。

仮説②
　単元を通して付けたい資質・能力を高め、その力を生かすための言語活動を設定する。言語活動（学習のゴール）に向けて、自分事として学習に臨み主体的に学ぶことにより、生きて働く力が育つであろう。

〈　手だて　〉　○「新美南吉ブックトーク発表会」と記録用紙の工夫

　学習のゴール「新見南吉ブックトーク発表会」に向けて、主体的に学ぶための手だてとして、自分が選んだ新見南吉の作品をブックトークでみんなに紹介する活動を設定する。ごんぎつねの学習で、叙述に即した物語の読み方を生かすことによって、作品の魅力について考えて発表できるようにさせる。

　また、単元を通して付けたい資質・能力を明確にするための手立てとして、発表会では、友達の発表を聞きながら記録用紙に友だちの発表の感想や評価を記入させる。ごんぎつねの学習で学んだことを生かしながら、観点に沿って友だちのブックトークを評価させるために、評価の観点はごんぎつねで学習した物語の読み方に関連させたものを設定する。身に付ける力を明確にし単元を通して一貫させることで、児童に付けたい資質・能力が着実に高められると考える。

4　単元の目標

（1）様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
〈知識及び技能〉（1）オ

（2）文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。　〈思考力、判断力、表現力等〉C（1）カ

（3）登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。　〈思考力、判断力、表現力等〉C（1）エ

（4）学習の見通しをもって、読んで考えたことを話合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気づこうとする。　〈学びに向かう力、人間性等〉

5　本単元で取り上げる言語活動

・自分が選んだ新見南吉の作品をブックトークでみんなに発表する会を開く。
（関連：C 読むこと（2）言語活動例イ）

6　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができている。　（(１)オ）	①文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。　C(１)カ） ②登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。　(C(１)エ)	①学習の見通しをもって、読んで考えたことを話合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気づこうとしている。

7　単元の指導と評価の計画（全１３時間）

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	○単元名とリード文を読み、学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ○学習のゴールの確認をする。 ○教師の範読を聞いて、内容と語句の確認をする。 ○初発の感想を書く。	○学習課題の確認 ○単元全体の見通し ・教師のブックトークの模範	○叙述に即してごんの性格や気持ち、情景について読み取り考えていく学習だと確認する。 ○学習のゴールとして、「新美南吉ブックトーク発表会」を開くことを伝える。
	2	○初発の感想から読みのめあてを考える。 想定される読みのめあて 「ごんは兵十に対してどんな気持ちなのだろう」 「ごんの気持ちはどのように変わるのだろう」	○読みのめあて ○学習の見通し	○子どもの中から出た言葉や文章で読みのめあてを考えることで、児童が主体的に学習に臨めるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 態度、ワークシート 学習の見通しをもって、読んで考えたことを話合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気づこうとしている。
	3	○物語のあらすじを考える。 想定されるあらすじ １の場面「いたずら好きなごん」 ２の場面「後かいするごん」	○物語のあらすじ ○物語のおおまかな内容	○物語のおおまかな内容をとらえ、児童の発言を基に、場面毎にあらすじ（小見出し）を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 態度、ワークシート 学習の見通しをもって、読んで考えたことを話合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気づこうとしている。
2	4	○１の場面のごんの気持ちを叙述から考え、ノートにまとめる。	○叙述をもとにした読み取り ・ごんの性格・気持ち ・情景描写 ○場面と場面のつながり ○意見や考えの共有	○児童が主体的に学習できるように、初発の感想を基に話し合いたいことを決めるようにする。 ○叙述を根拠にしながらごんの性格や気持ち、情景について考えさせるようにする。 ○場面が進むにつれて、変化している言葉を見つけさせることで、ごんの兵十に対する気持ちの変化に気付かせる。

2	5	○２の場面のごんの気持ちを叙述から考え、ノートにまとめる。	【知識・技能】 発言、記述 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができている。 【思考・判断・表現①】 発言、記述、観察 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。 【思考・判断・表現②】 発言、記述、観察 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	
	6	○３の場面のごんの気持ちを叙述から考え、ノートにまとめる。		
	7	○４・５の場面のごんの気持ちを叙述から考え、ノートにまとめる。		
	8	○６の場面のごんの気持ちを叙述から考え、ノートにまとめる。		
	9	○「ごん日記」を基にして、ごんの兵十に対する気持ちの変化についてまとめる。 ○兵十とごんの気持ちを比べながら違いを叙述を根拠に考える。	○叙述を基にした読み取り ・ごんの気持ちの変化 ・ごんと兵十の気持ちの比較 【思考・判断・表現②】 発言、記述、観察 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	○ごん日記にはごんの兵十に対する気持ちが高まってきているのを読み取ることができるので、なぜそこまで思いが強くなったのかを叙述を根拠にして考えさせる。 ○兵十はごんに対する気持ちが「ぬすっとぎつね」のままだったのはなぜかを考えさせる。
	10.（本時）	○テーマについて自分の考えをノートにまとめる。 ・テーマ「ごんの償いの気持ちは兵十に届いたのか」 ○タブレットを使って自分の立場を明らかにさせる。 ○テーマについてクラスで話し合う。 ○友だちの考えを踏まえて、自分の意見をまとめる。 【思考・判断・表現②】 発言、記述、観察 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	○理由となる表現を明確にした考え方 ○意見の共通点と相違点 ○根拠を明確にした考え方	○「ごんの償いの気持ちは兵十に届いたのか」を考える際には、ごんが生きているのか、死んでいるのかに執着させずに、文章を根拠に考えられるようにさせる。 ○タブレットを活用して、ごんの気持ちが届いていれば赤いカードを、届いていない場合は青いカードを送るようにさせることで、クラス全体の傾向を把握できるようにさせる。 ○自分の意見の理由を発表させることで、理由となる表現を明確にさせる。 ○友だちの意見を聞いて、自分のカードを変えてもよいことにする。その際に教師は児童に変えた理由を聞くようにすることで、話し合いが深まるようにさせる。 ○ごんに感情移入しすぎて叙述から離れないように適宜助言する。

3	11	○ブックトークの準備のしかたを知る。 ○「ごんぎつね」での物語の読み方を生かして新美南吉の作品を読み、ブックトークを行う作品を決める。	○ブックトークの方法 ○作品の特徴 ・登場人物の気持ちの変化 ・情景描写 ・場面の様子	○第１時のブックトークの模範を想起させ、見通しを持たせる ○本時までに、ブックトークをしたい本の見当を付けさせることで、作品を落ち着いて読めようにさせる。 【主体的に学習に取り組む態度】 態度、ワークシート 主張と事例について、文章の構成と関連させながら理解しているか確認する。
	12	○ブックトークの準備・練習を行う。	○作品の特徴 ・登場人物の気持ちの変化 ・情景描写 ・場面の様子 ○ブックトークの方法	○物語の登場人物の気持ちの変化に着目して発表できるようにさせる。 ○自分の一番伝えたい一文を見つけさせることで、具体的なブックトークができるようにする。 ○ペアで発表練習をすることで、互いに意見を交流し、より聞き手に作品の特徴が伝わり、物語に引き付けられるブックトークができるようにさせる。 【主体的に学習に取り組む態度】 態度、ワークシート 主張と事例について、文章の構成と関連させながら理解しているか確認する。
	13	「新美南吉ブックトーク発表会」を行う。	○相手を意識した発表 ○観点に沿った聞き方	○発表者の際は、作品の特徴が聞き手に伝わるように、相手を意識した態度で行わせる。 ○聞き手の際は、観点に沿って記録用紙に記録・評価をさせる。 ○最後のまとめでは、今回の学習が他教科や諸活動でどのように生かすことができるのか考えさせることで、実践意欲を高められるようする。 【主体的に学習に取り組む態度】 態度、ワークシート 主張と事例について、文章の構成と関連させながら理解しているか確認する。

本時の展開　　（１０／１３時間）

（１）　目標

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。　〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ

（２）　評価規準

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。

【思考・判断・表現】

（3）展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1　辞書引きをする。	○「つぐない」	○「つぐない」の意味を適切に理解させて、話し合いのテーマを把握できるようにする。	2
2　前時の想起と本時のめあてを確認する。	○本時の見通し ○テーマの確認	○本時の見通しを持たせながら、テーマと自分の考えを確認させる。	3
本文をもとにして意見を持ち、話し合いで自分の考えを広げよう。		テーマ「ごんのつぐないの気持ちは、兵十に届いたのか」	
3　「6」の場面の音読をする。	○音読 ・兵十目線の表現	○音読の前に「6」の場面では、兵十の立場で書かれていることを押さえさせる。	5
4　テーマについて自分の考えをノートにまとめ、カードの用意をする。	○場面のつながり ○根拠を明らかにした考えの持ち方	○テーマについて、自分なりの考えをノートにまとめる。 ○自分の考えの根拠となる物語中の表現も書かせる。 ○ノートに書き終わった人から、タブレットを使って、自分の立場をカードに表す。	10
〈予想される児童の反応の例〉 ・ごんの償いの気持ちは、兵十に届いたと思います。なぜかというと、兵十は「火縄銃をばたりと取り落としました。」とあるので、栗を持ってきてくれたごんを撃ってしまったことを後悔していると思ったからです。ごんも、兵十の言葉にうなずいているので、二人の心は通じ合ったと思います。 ・ごんの償いの気持ちは、兵十に届いていないと思います。なぜなら、兵十はなぜごんが栗をくれたのかをわかっていないと思うからです。また、「兵十のお母さんがうなぎを食べたいと思いながら死んだ」というのは、ごんの想像なので本当がどうかわからないと思います。			
5　テーマについて全体で意見を出し合って話し合い、自分の考えをノートに書く。	○場面のつながり ○自分の意見との比較	○自分の考えを広げるために他の考えと比較し、共通点と相違点について、なぜそうなるのか根拠となる表現を明確にさせながら考えさせる。 ○教師の切り替えしによって、叙述に即して読み直させることで、さらに読みを深くできるようにする。	15
	○根拠を明らかにした考えの持ち方	○クラスでの話し合いをふまえて、ごんの償いの気持ちは、兵十に届いたのかについて自分の考えをノートに書く。	5
〈予想される児童の反応の例〉 ・ごんの償いの気持ちは兵十には届いていなかったと思います。兵十は、ごんが栗を持ってきてくれていたことはわかりましたが、ごんがうなぎの償いのためにしていたことまでは考えられないのではないかと思いました。 ・はじめはごんの償いの気持ち届いたと思いましたが、他の人の発表を聞いて、ごんの償いの気持ちは届けられていなかったと思いました。なぜなら～		〈評価場面〉【思・判・表】〈評価方法〉行動、記述 ・叙述を基に自分や友だちの意見や考えを書くことができた児童をB評価とする。 〈努力を要する状況(C)への手だて〉 ・兵十の立場で考えさせたり、前時のごんと兵十の気持ちを比較したことを確認させる。	
6　本時の学習のまとめと振り返りを書き、次時の見通しをもつ。	○まとめ ○振り返りの視点 ・学習で学んだこと ・新しく分かったこと等 ○次時の学習の見通し	○友だちの意見と比較することで、自分の意見をさらに深めることができたか書かせる。 ○次時はブックトークに向けた学習をすることを伝え、見通しを持たせる。	5

（4）板書

気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

ごんぎつね

新見南吉

辞 つぐない…自分の罪やあやまちを他のものでうめあわせること。

例 自分の罪をつぐなう。

め 本文をもとにして意見を持ち、話し合いで自分の考えを広げよう。

テーマ「ごんの**つぐない**の気持ちは、兵十にとどいたのか」

6段落の場面絵

自分の考え

ごんの償いの気持ちは

兵十に とどいたと思います。

とどいていないと思います。

なぜなら、

○友だちの意見を聞いてみて

・ごんがうなづいたから。

・兵十が銃を取り落とすぐらいだから。

・青い煙や細く出ていたとあるので、兵十は悲しみや後かいの気持ちがあったのではないか。

・「ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは」と兵十が言っているから。

・くりをどうして持ってきたのか兵十はわからないだろう。

・お母さんがごんのせいで死んだのかわ

つぐないの気持ちはとどいていない

つぐないの気持ちは

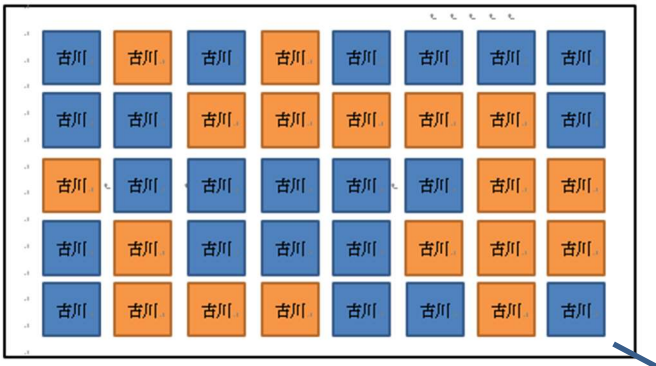
うなぎのつぐない

おっかあのための

つぐないの気持ちはとどいた

ま 登場人物の気持ちを考えるときは、文章の表現を話し合うことでより考えを広げられる

大型テレビ



タブレットを使って、赤の「償いの気持ちは届いた」と青の「償いの気持ちは届かなかった」に自分の名前だけを書いて送信し、集約することでクラス全体の傾向を随時、確認できるようにする。

話し合いの中では、意見が変わった人はカードの色を変えてもよいこととする。

教師は話し合いが深まるように、どの表現から赤や青のカードを選んだのか適宜指名する。児童がカードを変えた時などは、なぜ変えたのか理由を確認することで、さらに話し合いが深められるようにする。

（３） 目標

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(１)カ

（４） 評価規準

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。【思考・判断・表現】

（３）展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
１ 前時の想起をする。	○ごんと兵十の気持ち	○ごんと兵十の気持ちの違いや、ごんと兵十の人物像につて確認する。	2
２ 本時のめあてを確認する。	文章をもとにして意見を持ち、話し合いで自分の考えを広げよう。		3
３ 「６」の場面の音読をする。	○音読	○情景を想像しながら音読をさせる。	5
４ テーマについて自分の考えをまとめる。	○根拠を明らかにした考えの持ち方	テーマ 「ごんの償いの気持ちは、兵十に届いたのか」	15
		○テーマについて、自分なりの考えをノートにまとめる。 ○自分の考えの根拠となる物語中の表現も書かせる。	10
		○自分の考えと比較できるように友だちの意見もワークシートに書くように指示する。	
	○場面のつながり ○叙述を基にした読み取り	〈評価場面〉 【思・判・表】 〈評価方法〉 行動、記述 ・叙述を基に自分や友だちの意見や考えを書くことができた児童をＢ評価とする。 〈努力を要する状況(C)への手だて〉 ・「３」の場面でごんが兵十にしたことを確認し、ごんの気持ちを考えさせる。 ・ごんは加助と兵十からなんで逃げないのか考えさせる。	

〈予想される児童の反応の例〉
・ごんの償いの気持ちは、兵十に届いたと思います。なぜかというと、兵十は「火縄銃をばたりと取り落としました。」とあるので、栗を持ってきてくれたごんを撃ってしまったことを後悔していると思ったからです。ごんも、兵十の言葉にうなずいているので、二人の心は通じ合ったと思います。
・ごんの償いの気持ちは、兵十に届いていないと思います。なぜなら、兵十はなぜごんが栗をくれたのかをわかっていないと思うからです。また、「兵十のお母さんがうなぎを食べたいと思いながら死んだ」というのは、ごんの想像なので本当がどうかわからないと思います。

5　ごんの気持ちや情景を全体で話し合う	・ごんの兵十に対する気持ちの変化	○話し合ったことを基に「４」の場面のごんの気持ちを考えさせる。 ○「３」の場面までのごんの気持ちと比べさせることで、兵十の気持ちの変化に気付かせる。	5
6　まとめの「ごん日記」を書く。	○振り返りの視点 ・今日の学習で学んだこと ・新しく分かったこと　等 ○次時の学習の見通し	○叙述を基に読み取れたか、場面のつながりがわかったに触れながら、振り返りを書かせる。 ○次時は、「５」の場面の読み取りをすることを伝えて見通しを持たせる。	5
7　本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。			

本時の展開　　（６／１２時間）

（５）　目標

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉Ｃ　（１）エ〉

（６）　評価規準

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。

【思考・判断・表現】

（3）展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1　前時の想起をする。	○「3」の場面までの内容	○「3」の場面までのつながりを考えさせ、ごんの気持ちを確認させるる。	2
2　本時のめあてを確認する。	「4」の場面のごんの気持ちについて情景を想像しながら考えよう		3
3　「4」の場面の音読をする。	○音読	○ごんの気持ちを考えながら音読をする。	5
4　ごんの気持ちや情景を叙述に即して考える。	○叙述を基にした読み取り ・ごんの気持ち ・情景描写	○初発の感想から、どの文章からごんの気持ちについて考えるのかを確認する。 ○児童の空想ではなく、叙述を根拠にごんの気持ちや情景について考えさせる。	15
5　ごんの気持ちや情景を全体で話し合う	○叙述を基にした読み取り ・ごんの気持ち ・情景描写 〈予想される児童の反応の例〉 ・P23L11「月のいいばんでした」のところから、真っ暗ではなく、月の光で周りが見えるくらいの明るさはあったと思います。 ・P25L1「ごんは二人の後をつけていきました」のところから、ごんは二人の会話が気になってついて行ったのだと思います。 ・P25L8「ごんはびくっとして、小さくなって立ち止まりました」のところから、ごんは二人の話を聞くのに夢中で近づきすぎたのだと思います。 ・ごんはびっくとしたのは驚いたからで、小さくなって立ち止まったのは見つからないようにしたのだと思います。 ・ごんがだんだんと近づいたのは、初めは二人と書いてあったのが、兵十と加助だと変わり、二人の会話の内容まできこえるようになっていたところからわかると思います。	○話型の例として「○ページの□行目の△のところから、～だと考えました」を示すことで、本文を根拠に自分の考えを発表できるようにする。 ○自分の考えと比較できるように友だちの意見もワークシートに書くように指示する。 〈評価場面〉 【思・判・表】 〈評価方法〉 行動、記述 ・叙述を基に自分や友だちの意見や考えを書くことができた児童をB評価とする。 〈努力を要する状況(C)への手だて〉 ・「3」の場面でごんが兵十にしたことを確認し、ごんの気持ちを考えさせる。 ・ごんは加助と兵十からなんで逃げないのか考えさせる。	10
6　まとめの「ごん日記」を書く。	○場面のつながり ○叙述を基にした読み取り ・ごんの兵十に対する気持ちの変化	○話し合ったことを基に「4」の場面のごんの気持ちを考えさせる。 ○「3」の場面までのごんの気持ちと比べさせることで、兵十の気持ちの変化に気付かせる。	5
7　本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○振り返りの視点 ・今日の学習で学んだこと ・新しく分かったこと　等 ○次時の学習の見通し	○叙述を基に読み取れたか、場面のつながりがわかったに触れながら、振り返りを書かせる。 ○次時は、「5」の場面の読み取りをすることを伝えて見通しを持たせる。	5

9　板書計画